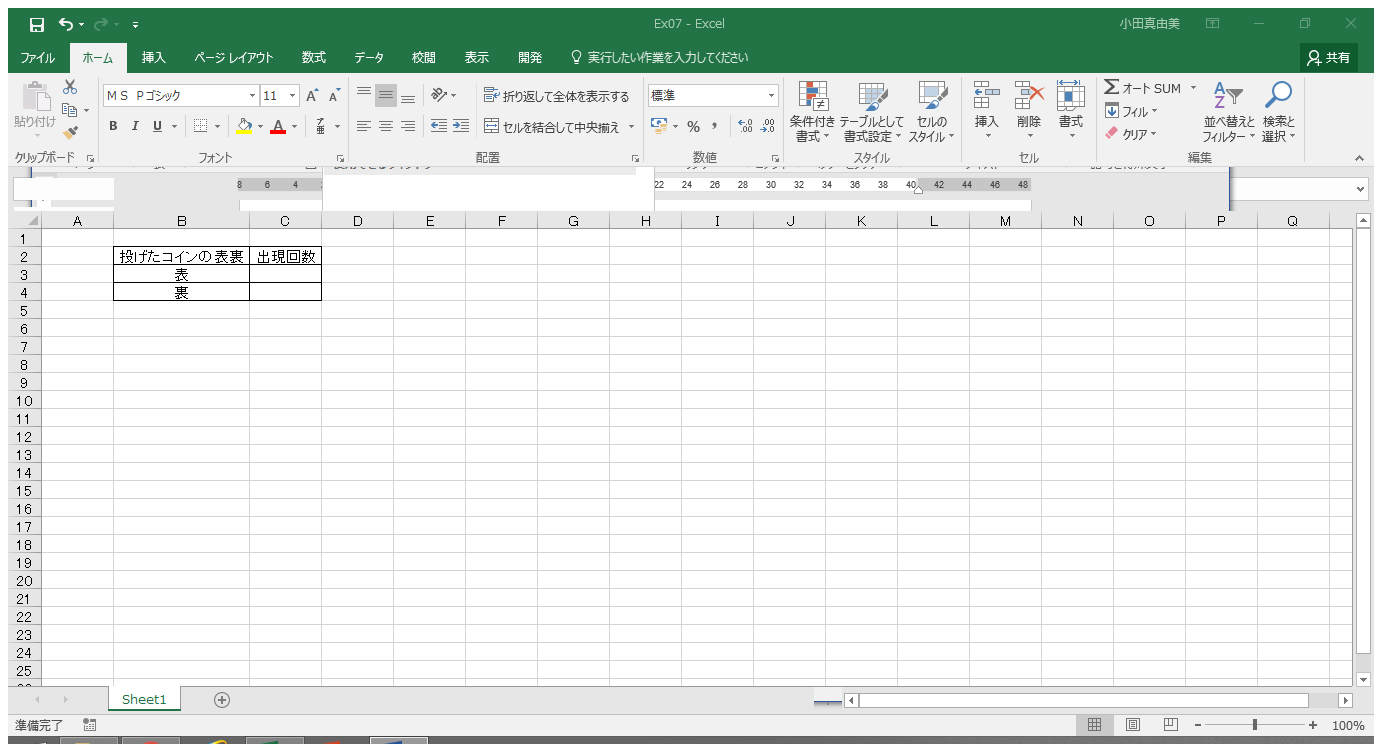
**演習０７（Step７関数とその使い方）**

Ex07.xlsmを開き、コイントスを1000回行った際の、コインの表裏の出現回数を求めるマクロを完成させましょう。



**演習０７（Step７関数とその使い方）ヒント**

**（１）課題の設定**

　ここでは、「コイントス」Subプロシージャが用意されています。ただし、結果の出力セル（C3:C4）をクリアーしているだけなので、このプロシージャに機能を追加することになります。

**（２）1000回のトス**

　1000回というように、回数が確定している繰り返しにはFor文が便利です。したがって、以下のようなFor文によって、1000回試行することになります。

　　　For I=1 To 1000

　　　Next I

**（３）コインの表裏**

実際にコインを使うことはできませんので、ここではRnd関数によって、乱数を発生させることを想定しています。そこで、0以上１未満の乱数をコインの表裏に割り当てなければなりませんが、それには以下のような方法が考えられます。

**A.　0.5をしきい値とする方法**

　これは乱数の範囲から、以下のようにコインの表裏を判定します。

　　　　0以上　0.5未満であれば　　　　　　　表

　　　　そうでなければ（0.5以上　1未満）　　裏

**B.　奇数と偶数に分ける方法**

　これは、得られた乱数を100倍した値の小数点以下を切り捨てた整数値が

　　　　偶数であれば　　　　　　　　　　　　　表

　　　　そうで無ければ（奇数）　　　　　　　　裏

　いずれにしても、コインの表裏の出現回数が等しくなることが期待できるように、割り当てる必要があります。